

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「こんな ことが あったよ」 教材名「こんな ことが あったよ」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。

(〔知識及び技能〕(1)ア)

経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

経験した出来事から、相手に知らせたい場面を選ぶ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	①経験した出来事から、相手に知らせたい場面を選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

経験した出来事から、相手に知らせたい場面を選ぶ。この教材では、経験の材料メモと知らせたい出来事の文章を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

学校での共通体験も材料にし、思い出すことが難しい児童に口述や絵を認める。書きたい内容を選ぶことと字の正確さを分けて支援する。想定する難しさは、出来事を全部並べ、中心の場面が見えなくなる。評価では、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、経験の材料メモと知らせたい出来事の文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確認め、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○最近の出来事を絵や言葉で出し、話しながら知らせたい場面を選ぶ。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	4～5 （本時）	○最近の出来事を絵や言葉で出し、話しながら知らせたい場面を選ぶ。いつ・どこ・だれ・したことを確かめて短い文章を書き、友達が知ったことを返す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	6	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「いちばん知らせたいのは、どんなことが起きた時ですか」 【めあて】経験した出来事から、相手に知らせたい場面を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・楽しただけでなく、何をしたかを書きたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「いちばん知らせたいのは、どんなことが起きた時ですか」 最近の出来事を絵や言葉で出し、話しながら知らせたい場面を選ぶ。いつ・どこ・だれ・したことを確かめて短い文章を書き、友達が知ったことを返す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・楽しただけでなく、何をしたかを書きたい。 ・友達の質問で思い出したことがある。	学校での共通体験も材料にし、思い出すことが難しい児童に口述や絵を認める。書きたい内容を選ぶことと字の正確さを分けて支援する。 想定する難しさ：出来事を全部並べ、中心の場面が見えなくなる。 評価では、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、経験の材料メモと知らせたい出来事の記事と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 経験の材料メモと知らせたい出来事の記事を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の質問で思い出したことがある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「いちばん知らせたいのは、どんなことが起きた時ですか」。中央は、経験の材料メモと知らせたい出来事の記事に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

